

## 鯖江市 DX 推進基本方針 (R8.3 改正)

### 1 目的

鯖江市の行政サービスを、より便利で使いやすく、かつ少人数でも確実に運営できる持続可能な仕組みへ転換するため、まず業務そのものの見直し・再設計を中心に進める。

そのうえで、業務改革 (X) に資する領域には、実施可能なものから積極的にデータ活用やデジタル技術を導入 (D) し、効果の高い施策を優先的かつ計画的に進めることで、全庁的な DX (デジタル・トランスフォーメーション) 推進を図る。

### 2 基本原則

#### (1) 行政サービス向上

「行かない・書かない・待たない」を基本に、市民サービスを利用者視点で再設計し、使いやすさ・分かりやすさ・公平性を高めるとともに、いつでも、どこでも、誰もが円滑にサービスを利用できる仕組みを構築し、電子申請や AI など多様な手段で利便性の向上を図る。

#### (2) 業務改革の推進

市民サービス向上と業務効率化を両立させるため、紙を前提とした業務慣行にとらわれることなく、業務の在り方をゼロベースで見直すとともに、標準化・簡素化を最優先で進める。その上で、デジタル技術は、これらの改革を実現するための手段として位置付ける。

また、業務改革を進める中で必要となる情報やデータについては、業務プロセスの最適化に資する形で、適切に活用していく。

#### (3) 人材育成と改善意識の向上

ひとりひとりの職員のスキルと改善意識の向上を図るとともに、部署間で取り組み状況に差異が生じることのないよう、組織全体として業務改善に取り組む意識の向上を進める。また、外部人材の知見も取り入れながら、日常業務を通じた学びにより、業務改革や DX を支える人材の育成を進める。

#### (4) 継続的改善と挑戦の促進

PDCA による継続的な見直しを行い、挑戦を評価する文化を醸成する。全職員が改革の担い手として改善を積み重ねる。

### 3 推進体制

#### (1) 組織体制

市長	全体を統括し、リーダーシップを発揮して本方針に基づく業務改革およびDX推進の方向性を示すとともに、最終的な意思決定を行う。
担当副市長	市長の方針のもと、最高情報統括責任者（CIO：Chief Information Officer）を担い、全庁的な視点から業務改革およびDX推進を指揮し、部局間の調整や進行管理を行う。
行政管理・DX推進課	基盤整備や情報共有を行い、各課の取組に対する助言および伴走支援を担う。また、必要に応じて、外部専門家等の知見を活用し、効果的な推進体制を維持する。
各課	業務改革の実行主体として、自らの業務を起点に、日常業務の見直しや改善を継続的に取り組む。

#### (2) 職種（役職）における役割分担

部長	所管部門における責任者として、業務改革の進捗を管理し、部内の取組を総括する。
課長	所属課における管理者として、業務改革の進捗を管理するとともに、課内の取組を主導する。
グループリーダー	日常業務に即した課題や改善点を把握し、業務改革の具体的な取組について、課員の取組を踏まえ、支援・調整する。
課員	日常業務の中で課題や改善点に気づき、業務改革に向けた提案を行いながら、業務改善に取り組む。

### 4 進行管理

半期ごとに進捗を点検し、改善につなげるとともに、成果を庁内で共有し、CIOへ報告する。基本方針にもとづくアクションプランを毎年策定・見直しし、持続的な改革サイクルを確立する。

### 5 施行日 令和8年4月1日より施行する。